

(議員用)・会派用)

政務活動費収支報告書

2026年 4月 14日

八尾市議会議長  
竹田 孝吏 様

議員名又は会派名とその代表者名  
吉村 拓哉

条例第13条第1項の規定により、令和7年度政務活動費収支報告書を提出します。

1 収入 (単位: 円)

| 項 目       | 金 額      |
|-----------|----------|
| 政 務 活 動 費 | 840,000円 |

2 支出 (単位: 円)

| 項 目 | 金 額      |          |
|-----|----------|----------|
| 支 出 | 調査研究・研修費 | 119,610円 |
|     | 要請・陳情活動費 |          |
|     | 資料作成費    |          |
|     | 資料購入費    |          |
|     | 広報費      | 706,452円 |
|     | 広聴費      |          |
|     | 日常活動費    |          |
|     | 人件費      |          |
|     | 事務所費     |          |
|     | 事務費      |          |
|     | 合 計      | 826,062円 |

3 収入支出差引残額 (返還額)

13,938 円

注) 支出が収入を上回る場合は、残額欄には0円と記載のこと。

様式第17号（第9条関係）

政務活動費における活動報告書

令和7年度の政務活動の内容は、収支報告書のとおりであります。そのうち、主要な政務活動内容の概要については、別紙のとおりでありますので条例第14条第1項及び条例施行規程第9条第1項の規定に基づき簡潔に報告いたします。

令和7年8月27日・28日・29日の第20回全国市議会議長会研究フォーラムin札幌に参加しました。また旭川市・東川町・富良野市を視察しました。

またニュースを作成し、ポスティングにて配布致しました。

議員名又は会派名とその代表者名

吉村 拓哉

別紙①

地方議会議員のなり手不足問題の解決に向けてと題されパネルディスカッションで進行された。基調講演に伊吹 文明 氏・パネルディスカッションに辻 陽 氏・牧原 出 氏・白石 洋一 氏・山下 節子 氏・長内 直也 氏

基調講演の題は「主権を預かる誇りと責任」でした。

パネルディスカッションの題は「多様な人材の参加促進の観点から地方議会議員のなり手不足問題を考える」でした。

問題提起された内容で関心があったのは、地方議会・議員に対する無関心、もしくは不信が広がる現状・地方議員選挙における投票率の低下・無投票当選者や定員割れが顕著に増加している点です。

地方議員は市民に一番近い存在とされ、地域課題に敏感で積極的に動く存在だと認識しています。しかし地域間交流が減少してきている昨今の状況を見てみると、市民一人一人の認識が地域課題の解決こそが自分の生活に直結していると感じられなくなっている気がします。隣近所との日々のコミュニケーションが無くなり、自治会や町会が無くなり、自分の生活や家族さえ良ければいいという世の中になっていけば、更に地方議会や議員に対する関心は無くなります。

しかし、地方議員が直面している地域課題や市民相談は年々増えてきていると感じます。

先輩議員からは政治は無関心であっても無関係ではいられないと教わってきました。

関心がなくなっている現状を私たち議員が深刻に捉えなければ、本当の意味での地方自治は出来ないと考えています。学校では主権者教育が必要ですし、大人になっても自分の住んでいる場所の議会や議員が何を発言して、どう行動しているかは随時知って頂かなければなりません。その為に議会からは議会だよりやSNSを活用してきました。

情報を発信するだけでなく、身近な存在になれるように日々活動していかなければと改めて感じる視察でした。

別 紙②

北海道、旭川市・東川町・富良野市を視察しました

共通している事は移住促進施策です。八尾市でも30万人都市を目指した経過がありますが、現在では26万人を切る状況です。人の取り合いをしている事に変わりはありませんが、子育て世代の移住促進として子育てしやすい市にしていける事は悪い事ではありません。

特に視察をさせて頂いた東川町は木材が有名な場所で、子どもが生まれるとマイチェアを子どもへプレゼントする取り組みや、土地や建物の入手にも移住者が住みやすい制度設計をされていました。また「ひがしかわ株主制度」を創設し、寄付者には町内100店舗以上ある加盟店で使える優待カードを配布したり、返礼品を受け取ったりと様々な工夫をしながら自分たちの町の魅力を内外へ発信しておられました。

八尾市でも移住促進施策として住宅リノベーションや空き家の改修促進をしています。なかなか人口増加に繋がっていないのが現状です。八尾市の魅力発信は勿論しなければなりませんし、魅力を作らなければなりません。日本全体の出生数が減少しているので仕方がない部分はありますが、子どもを産み育てやすい施策を進める事が人口減少に歯止めをかけられると考えています。

今回の視察を八尾市政発展に繋がられればと思います。